



「主体的学び」をうながす「仕掛け」とは？

～ノートテイクの意味づけの転換と、その効果について～

同志社中学校（中学3年生 社会科 公民的分野担当） 井口 和之

右のQRコードより、追加資料をぜひご参照ください。（順次公開します！）



実践背景（課題の整理）

生徒がおかれている現状と、「主体的学び」への3つの課題

- ①「学びのゴール」も「学びのルート」も生徒は自分で選んでいない。
- ②「テンプレ化」した表現が多く、オリジナリティが発揮できていない。
- ③ 評価する教師、される生徒、固定した関係が生徒を受け身にする。



自分の目標や基準、自分のやり方やこだわり、誰かではなく「自分」を出せる機会が少ない。

2024年度の実践のPOINT（仮説のような期待）

- ① 生徒に「完成度」や「手法」の設定を委ねると、指示されなくても主体的に学ぼうとするのでは？
- ② 「見本」を提示せず、「好きなように」とはたらかせると、「オリジナリティ」が見えてくるのでは？
- ③ 教師が評価を手放し、生徒にまかせてみると、自己評価や相互評価がうまくはたらくのでは？

「ルーブリック評価」もわかるけど、それもやっぱり、自分の「外」にある基準にあわせることに変わりない……。



実践方法（ノートテイクで「仕掛け」る）

ロイロノートを活用したノートテイク。授業では「気づきMEMO」と呼称を、各授業ごとに作成し提出をうながす。



「気づきMEMO」は基本的には評価対象外とする。
各学期末に、任意の2つを選び、評価対象として登録する。

「気づきMEMO」はすべて「回答共有」とする。
友だちの「気づきMEMO」を「コピペ」するのも、何でもOK！

「気づきMEMO」は参照した人、参照された人、双方を誉める。成績に加味せず、ただ授業で誉めるだけ。

テストかわりに学期末にミニレポートを提出させる。
「気づきMEMO」を見返したくなるようなテーマを設定。

何に反応し、何を記録し、何をMEMOするかも自由。それこそ、主体的！



1学期：ワークシート(4) レポート(4) 気づきMEMO(9) 計17
 2学期：ワークシート(3) レポート(4) 気づきMEMO(13) 計20
 3学期：ワークシート(6) レポート(3) 気づきMEMO(8) 計17

「気づきMEMO」／アンケート実施

学力についての生徒たちの感覚を確認する

- ・生徒たちが身につけたいと思っている「学力」とは？
- ・授業を通してその「学力」が身につけているか？
- ・「気づきMEMO」という仕掛けが効果的かどうか？
- ・自己評価、相互評価が成り立っているか？
- ・学びと成長の「実感」を得ているか？

学力って、本来、多義的。だから、それを生徒自身が考えられるように仕かける。



「気づきMEMO」の効果検証（定量的/定性的）

- ・「気づきMEMO」の提出状況は？
- ・提出されたものから何が見えてくるか？
- ・生徒間でどのような質的差異が認められるか？
- ・同一生徒において変化（成長）が認められるか？
- ・「気づきMEMO」の取り組みが主体的な学びを形成・発展させるきっかけとなっているかどうか？

教師が手放したことで生徒が学びを楽しむことができたらしい。学びは本来、主体的。ただのノートテイクが転換となるか？

結果と分析

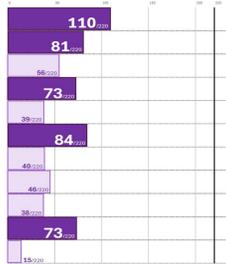
生徒が「身につけたい」とする力



「論理的思考」や「調査・分析」の力は、どの調査でも1位にならず、2位にとどまる。生徒たちにとっては、左図のような力が身につけたいものとして重視されている。これらは、いずれも成果物から計測しにくく、個々の生徒の主観に依存する。

生徒の学力についての考え方

- ・テストで測定しにくい「暗記型」ではない「学力」が多い。
- ・テストの代わりに提出物で学力を測ることは可能。
- ・テストを用いた方が効果的だと思う。
- ・暗記すべき知識もあるが、提出物で評価できると思う。
- ・ネットを使って、あいまいな暗記に頼るべきではない。
- ・学力はグループとして備わるものでもあると思う。
- ・学力は個人に備わるものだと思う。
- ・学力が伸びたかどうかは「主観」によるところが大きい。
- ・「主観」に頼ると、あいまいさが問題になると思う。
- ・学力は他者とはではなく、以前の自分と比較すべきもの。
- ・学力は以前の自分とはではなく、他者と比較すべきもの。



▼ 図①（友だち評価）



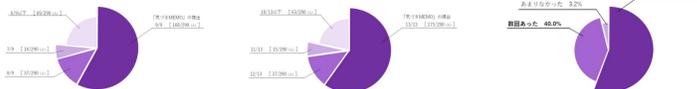
▼ 図② Aさんの例①



▼ 図③ Aさんの例②

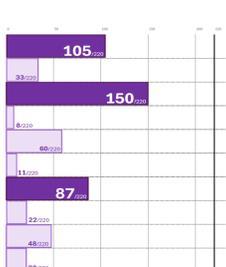


「気づきMEMO」の提出状況と評価



【「気づきMEMO」についての生徒の意見】

- ・任意の枚数を提出する今の方法でよい。
- ・毎回提出すべき課題にしたほうがよい。
- ・友だちのものから学べるので「回答共有」でよい。
- ・誰かに写されるので、「回答共有」すべきではない。
- ・「回答共有」されているので、意識的にがんばった。
- ・「回答共有」されているので、ストレスを感じた。
- ・「気づきMEMO」は自分の学習方法に合っている。
- ・ノートの取り方を指定された「ノート点検」のほうがよい。
- ・正解のあるワークシートより「気づきMEMO」がよい。
- ・正解のあるワークシートのほうが重要だと思う。



▼ 図④ Bくんの例①



▼ 図⑤ Bくんの例②



「気づきMEMO」の効果

自分で評価して欲しい「MEMO」を選ぶプロセスにより、生徒が主体的に自分の学びを振り返り、どの内容が重要だったか、どれに価値があるかを自己判断する力が養われる。この自己選択と自己評価を通して、生徒の内発的動機づけを高めることができると考える。

- ① 生徒間の相互作用
全授業で他の生徒のノートを参考に事例が多数。
- ② 積極的な模倣とリスペクト（図① 友だちの評価）
生徒同士が相互にリスペクトし合い、ノートの改善が見られた。
- ③ 生徒の意識変化（図②、図③ Aさんの例）
比較的低学力の生徒も少しずつ丁寧なノートテイクに改善できた。
- ④ 個別の学習スタイル（図④、図⑤ Bくんの例）
上位層生徒は「雑」に見えるノートでも、自分用として効率的に活用。
- ⑤ 自由度と負担感
提出枚数の自由度と評価対象の限定により、負担感を軽減できた。生徒それぞれのペースで学習が進み、積極的な参加が促された。

考察と今後の課題

「主体的学び」を育むためには、生徒が自らの学びを自分の方法で記録し、振り返り、自己（相互）評価を通じて学びの質を高めることが重要であると確認できた。「気づきMEMO」は、「何を学ぶか」「何をどのように記録するか」「どこまでがんばるか」を生徒自身が選択し、自分で評価する機会となった。あわせて、定期考査を実施していないからこそ、「気づきMEMO」は自分の学びの記録として意識されていた可能性が高い。だからこそ、取り組みの当初から、生徒たちは、「評価対象ではない」とされていても、予想外に積極的に取り組み、提出していたのだといえる。「個性を活かした学び」と「自分のペースで進める学び」は、生徒の学びの実感に直接響くものであり、ノートテイクが自己表現の一環となっていた。今後の課題は、この自己（相互）評価の客観性である。この点については、引き続き検討していきたい。